

応募書類の執筆要領（法学部用）

【I】教員個人に関する調書

（1）「履歴書」部分

- ・ **写真**…証明用写真を貼付するか、証明用写真に準じる写真が貼付欄に表示されるようにデータを貼り付けた上で印刷してご提出ください。
- ・ **年月を記す欄（学歴、職歴、学会及び社会における活動等、賞罰、教員研究業績書の発行年月など）**…日本の年号で記載してください。
- ・ **学歴**…高校卒業以後を記してください。
- ・ **職歴**…①職歴すべてを、始期・終期を明示して記入し、職名・地位等についても記して下さい。現職については、「現在に至る」と記して下さい。
② 教員の職歴に関して、担当した科目を（ ）で付記して下さい。

（2）「教員研究業績書」部分

- ・ **著書、学術論文、判例評釈、学会報告等**について、それぞれ区分して、ご記入ください。
- ・ **著書・学術論文等の名称**…上記の区分ごとに、発行年月の新しいものから順に番号を付して記入して下さい。
- ・ **発行又は発表の年月**…日本の年号で記載してください。
- ・ **編著者**…論文の執筆者名、著書の編著者名を記して下さい。共著の著書の場合は、編集者名が明らかな場合は編集者名を、編集者がいない共著の場合は、代表執筆者名と（他）と記し、担当した箇所の開始頁を「備考」欄に記して下さい。共著者全員の氏名や、担当箇所が複数ある場合の詳細な情報は、**別紙<概要>**に記して下さい。
- ・ **捺印**…履歴書の末尾、および、教育研究業績書の冒頭部分の2箇所に、ご捺印ください。

【記入例】

教 育 研 究 業 績 書				
				平成 26 年 7 月 1 日
				氏名 若 木 太 郎 ㊞
著書・学術論文等の名称	編著者	発行所、発表雑誌又は 発表学会の名	発行又は発表 の年月	備考
[著書] ①○○○○○○○ ②○○○○○○○○○ ③○○○－○○○○○	○○○ △△△（編） ○○○（他）	○○社 ○○社 ○○○社	平成○年○月 平成○年○月 平成○年○月	1頁以下 58頁以下

(3) 「教員研究業績書 別紙<概要>」部分

- ・ **著書・学術論文・その他の別**…この別紙は、書籍、学術論文、その他を別々に作成して、ご提出ください。(例えば、書籍、学術論文、判例評釈がある場合は、書籍・学術論文・その他、それぞれの別紙をご提出いただくことになり、少なくとも3部の別紙をご提出いただくこととなります。)
- ・ 教育研究業績書に記入した著書等について、その「概要」を別紙の所定用紙に200字程度で記入してください。
- ・ 「教員研究業績書」と「教員研究業績書 別紙<概要>」は、提出書類としてお送りいただく著書・論文(5点)以外のものも含めてお書きいただきかまいません。必要があれば、コピー、または、欄を追加してお使いください。
- ・ **その他**には判例評釈・学会報告などをご記入ください。
- ・ **著書・学術論文等の名称**…「教育研究業績書」で付した番号と同じ番号を付して、記して下さい。・ **共著の著書の場合**、共著者全員の氏名や、担当箇所が複数ある場合の詳細な情報(特に、ご自身の執筆部分が明らかな場合は、その担当箇所(章、担当執筆部分の名称、頁数))を明示して下さい。

【記入例】

著書・学術論文・その他の別	著書等の区分を記入 (区分ごとに用紙を分けてください)	氏名
著書・学術論文等の名称	教育研究業績の「概要」	
①○○○○○○○ 教育研究業績書の番号と一致する	○○学の体系的な概説書である。○○○について分析・解明し、○○に理念付け、体系化したものを…………… ………………について論述した。	
②○○○○○○○ 教育研究業績書の番号と一致する	○○についての研究である。…………… ………………について論述した。 共著者：○○ ○○、○○ ○○○、若木 太郎、○○ ○○。 担当：「第1章 ○○○の分析」(1~28頁)	

【II】講義計画

- (1) 國學院大學法学部では Semester 制を採用し、半期 15 回で完結する授業を行うことを原則としており、講義科目「日本の政治 A」も、政治専攻および法律専攻において、2 年生向けに半期科目として開講されています。そのため、ご提出いただく「講義計画」は、2 単位半期の科目として 15 回分の計画を作成してください。
- (2) 「日本の政治 A」および「日本の政治 B」は、それぞれ 2 年次配当の半期 2 単位の選択必修科目であり、通常、同一年度に、前期に「日本の政治 A」、後期に「日本の政治 B」をご担当いただきます。両科目は、主として 1970 年代から現代までの日本の政治(経済・社会・外交への言及を含む)について、①その歴史的な概略の説明、②その構造的な特徴についての概略の説明、③それら进行分析する基本的な枠組(比較政治学的なもの、および、日本政治分析独自のもの双方)の概略の提示を行ってもらうことを目的としています。
- (3) 今回の講義計画は、「日本の政治 A」についてのみご執筆いただきます。ご執筆の際、「日本の政治 B」の内容との連続性を考慮していただいて構いません。その際、「講義計画」の末尾の「注意事項」欄に「日本の政治 B」でとりあげる内容を簡潔にご記入下さい。
- (4) また、受講対象となる学生は法律専攻と政治専攻の 2 つの専攻にまたがる可能性がありますが、講義計画は政治専攻の学生向けの講義を念頭に置いてご執筆下さい。各専攻の特質等については、大学ホームページでご確認下さい。
- (5) 講義計画の想定受講者である政治専攻の学生に関しては、カリキュラム上、①高校の政治経済程度を含む政治制度論および比較政治の初歩的な知識、②19 世紀後半から 1960 年代前後までの日本および西洋主要国の政治史の知識、を前提として講義していただくことができます。また、同学年で並行履修する、比較政治学の基礎、行政学、国際政治、政治思想史等の知識を合わせて、上位学年の「比較政治」等の講義に接続するようになっています。科目の位置づけなど詳細については、本学法学部のホームページ「教育研究上の目的と方針」の最下部にアップされている政治専攻の「カリキュラムマップ&ツリー」をご覧ください。

--->「法学部 教育研究上の目的と方針(http://www.kokugakuin.ac.jp/law/hou_3policy.html)

・「講義計画」の末尾に捺印箇所がありますので、**捺印**の上、ご提出ください。